

## 資料 2

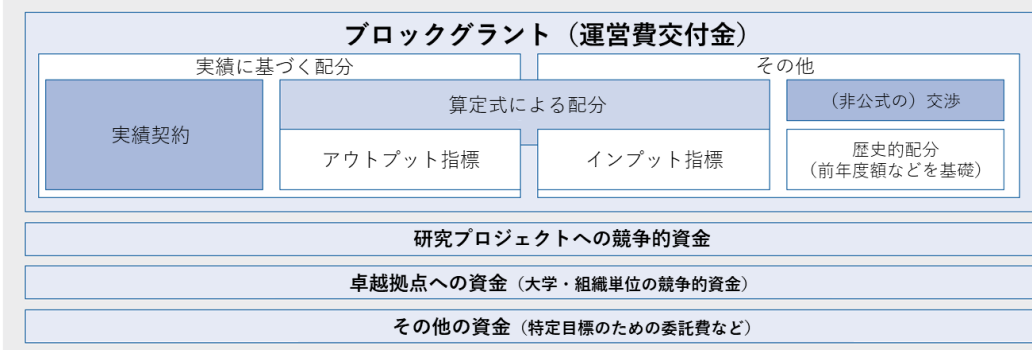
第5期中期目標期間における国立大学法人運営費  
交付金の在り方に関する検討会（第2回）  
R8.3.24

# 大学への基盤的資金配分 の国際状況

林 隆之（政策研究大学院大学）

# 第4期目標期間に向けた委員会（2020年10月）でも同様の報告。 そのときの概要は以下

図 大学への公的資金の配分メカニズム



出典：Pruvot, E. B., Claeys-Kulik, A.-L. and Estermann, T. (2015)に基づき、筆者和訳

欧州の議論では、交付金配分は、「前年度額などに基づく歴史的配分」から「アウトプット指標に基づく配分」や「実績契約」による配分へ移行

## 日本の現状

- 8割以上を占める「基幹経費」は、前年度額を基に額が決まり、各大学の現時点の教育・研究活動の費用や教育・研究実績と整合しているか不明。
  - ✓ 算定根拠がないため、削減対象になりやすい。
  - ✓ 教育研究実績を向上させるインセンティブが働かない。
- 第三期には基幹経費を圧縮して競争的配分を導入。しかし、本来、教育研究へ使う基盤的資金が減り、不安定かつ短期的視点での配分に。

## 国際的にはどういった状況か

- 世界的には、前年度額や非公式の交渉に基づく配分から、簡便なコスト指標（学生数等）や実績指標を用いた算定方式や、実績契約に基づく配分へと次第にシフト。

## 教育研究のコストや実績を反映した算定による交付金配分の導入の必要

- 大学の教育・研究・社会貢献の機能ごとに、コストや実績の簡易な測定を行い、交付金に反映させる、透明な算定方式へ
  - ✓ たとえば運営費交付金を、
    - ①学生数などのインプット指標に基づくコストを保証する基盤的部分、
    - ②博士号授与数や論文・特許数、教育研究の質的な評価結果などの教育・研究・社会貢献の実績を測定してインセンティブを付与する部分、
    - ③国の政策・社会課題への貢献や、自律的な改革などの大学の経営指針を反映した「契約」に基づく部分
 などで構成。
  - ✓ 大学の種別や分野に配慮した、指標の構成や測定方法を検討する。
- 大学による長期的な視野に立つ自律的経営を可能とする資金配分へ
  - ✓ 6-7年に一度の定性的な大学評価の結果や複数年に渡る指標を活用した、安定的、あるいは期間中の増減が予め把握可能な資金配分を行い、大学が自律的経営ができるようにする必要。
  - ✓ 算定には指標を用いても、交付後の用途は大学の裁量に委ねる方式を堅持。

日本の現在の算定は「前年度額などに基づく歴史的配分」中心であり、根拠がないため、削減対象になりやすい。基盤的資金を圧縮して競争的配分を創出することで持続性に問題。

# 6年間のアップデート

国際的にみて運営費交付金配分の基本的な構成要素は同じ

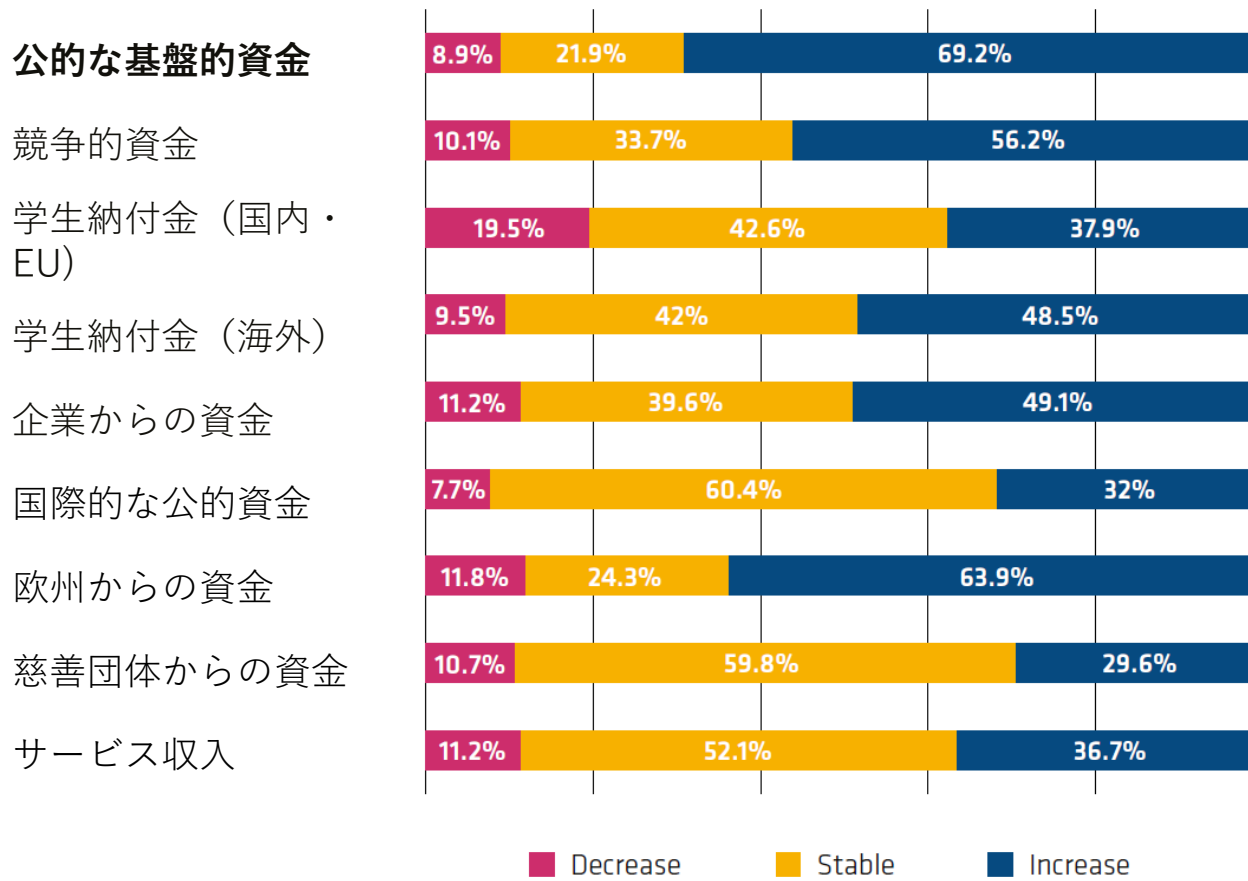
- ✓ 古い「歴史的配分」 → ①インプット指標による**基盤部分**、②アウトプット指標による**実績配分(PBF)**、③国と大学の**契約**に基づく実績配分

## 最近の状況認識

欧州大学協会(2022)	過去の2015年調査と比べて、 <b>契約や目標設定</b> が資金配分の指標として広がっている。 Bennetot Pruvot, E., & Estermann, T. (2022). <i>Allocating core public funding to universities in Europe: State of play &amp; principles</i> . Brussels: European University Association.
EU(2023)	私たちの社会は、高等教育機関が気候、デジタル、人口動態、地政学、健康、それらの社会的・経済的影響といった複数の課題に立ち向かうことを必要としている。高等教育システムが教育、研究、イノベーション、社会貢献の <b>全ミッション</b> において多様な目標を達成できるよう、 <b>資源配分の最適化が求められる</b> 。EU全域において、実績配分(PBF)は高等教育機関への中核資金を提供する手段として普及してきた。しかし、 <b>PBFの影響と成功する要件について評価が必要である</b> 。 European Commission. (2023). <i>Study on the state and effectiveness of national funding systems of higher education to support the European Universities Initiative: Executive summary</i> . Luxembourg: Publications Office of the European Union.
欧州大学協会(2025)	最近では <b>複数の国で公的資金が削減され、世界的な政治情勢も不安定なまま</b> で、大学セクターがこれまで経験してきた「成長」モデルは揺らぎ、財政戦略の再評価が求められている。 <b>VUCAの財政環境は単なる周期的な現象ではなく、新たな常態となる可能性がある</b> 。大学はこうした状況に備える必要がある。 <b>今後10年は、パフォーマンスや競争に重点を置いたモデルから、戦略的な視点と協働へとシフトすることが求められる</b> 。大学は資源の集中や資産の共有を通じて、インパクトと効率性を最大化し、社会に対する自らの強みと価値を活かしながら、戦略的に課題に取り組むことが重要である。 Bennetot Pruvot, E., Estermann, T., & Popkhadze, N. (2025). <i>Financially sustainable universities: State of play and strategies for future resilience</i> . Brussels: European University Association.
OECD(2025)	2025年におけるOECD諸国の高等教育システムの <b>財政的持続可能性に関する主な課題</b> は、 a) 公的補助金の <b>実質価値の低下</b> (インフレ等)、b) 国内の <b>入学者数の減少</b> とそれに伴う <b>資金の減少</b> 、c) <b>留学生数の変動・減少</b> 、d) <b>研究資金が研究の総経済コストを十分にカバーしていない</b> 継続的傾向、e) 固定費が大きい中、 <b>収入減少に対応して高等教育の活動や組織を再構築することの本質的な困難さ</b> 、である。 <b>活動基準原価計算(Activity-Based Costing)の手法に基づくコスト分析は、分野ごとの教育コストの違い等を踏まえた政策立案や資金配分判断に有用</b> OECD (2025) <i>The Financial Sustainability of Higher Education: Insights from Policy in OECD Countries</i> . Higher Education. Paris: OECD Publishing

# 欧州における傾向①

2024年8月時点における、過去5年間の収入の変化（34か国168の高等教育機関による回答）



基盤的資金  
が最も拡大

Bennetot Pruvot, E., Estermann, T., & Popkhadze, N. (2025). *Financially sustainable universities: State of play and strategies for future resilience*. Brussels: European University Association.

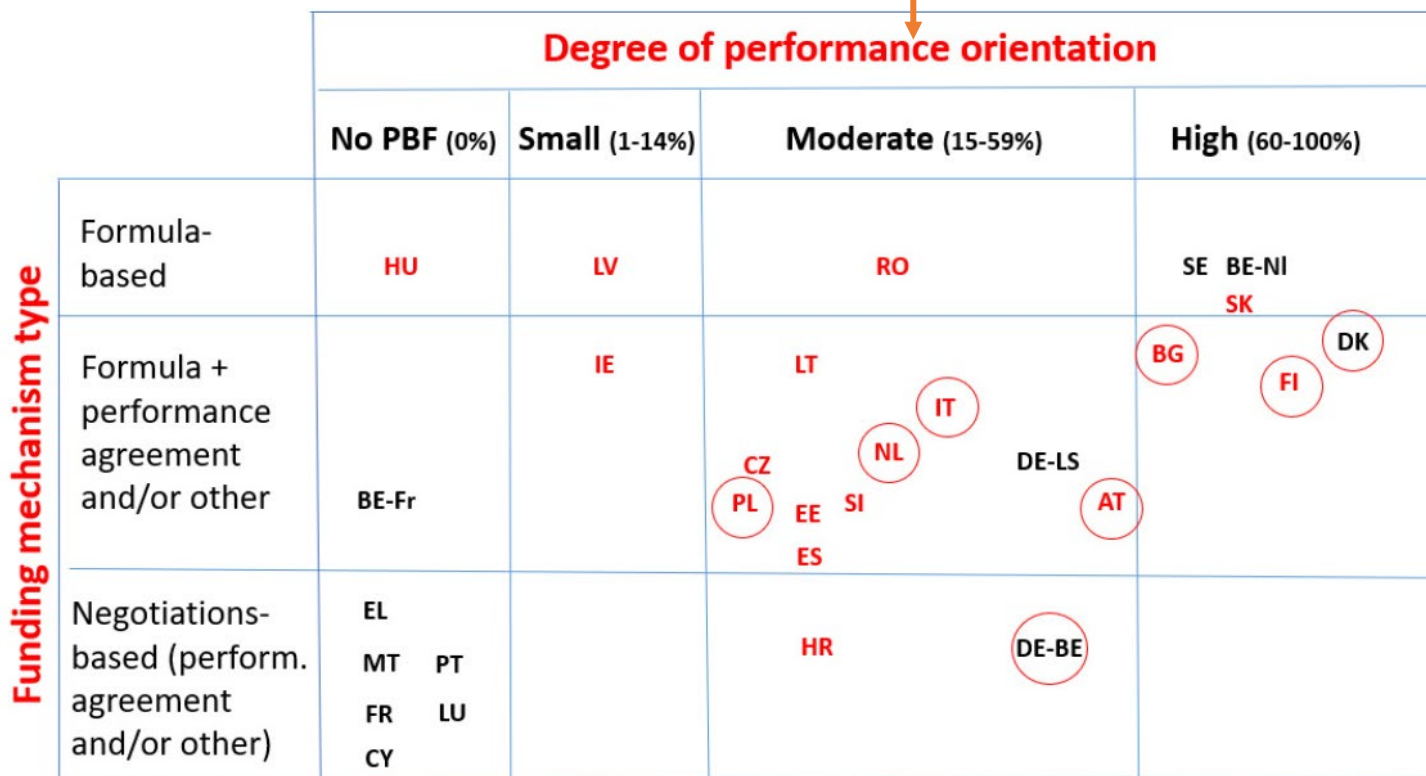
# 欧州における傾向②

国	算定式（インプット指標）	算定式（アウトプット指標）	契約	歴史的／交渉／固定配分
オーストリア		○	○	
ベルギー（フランス語圏）	○			○
ベルギー（フランドレン）	○	○		
スイス	○	○	○	
チェコ	○	○		
ドイツ	○	○	○	○
エストニア		○	○	○
スペイン（カタルーニャ）	○	○	○	○
スペイン（マドリード）	○	○		
デンマーク		○	○	○（研究）
フィンランド		○	○	
フランス			○	○
クロアチア	○	○	○	
ハンガリー	○			
アイルランド	○	○	○	
アイスランド	○	○	(○)	
イタリア	○	○	○	○
リトアニア	○	○		
ルクセンブルク			○	
オランダ	○	○		○
ノルウェー	(○)	○	(○)	○
ポーランド	○	○		○
ルーマニア（教育）	○	○		
セルビア	○	(○)		
スウェーデン	○（教育・研究）	○	○	○（研究）
スロバキア	○	○	○	
英国（イングランド）	○（教育）	○（研究）		
英国（スコットランド）	○（教育）	○（研究）	○（教育）	

Bennetot Pruvot, E., & Estermann, T. (2022). *Allocating core public funding to universities in Europe: State of play & principles*. Brussels: European University Association.

# 欧州における傾向③

アウトプット指標による実績配分(PBF) + 実績契約



出典：ICF/CHEPS

赤字はPBFの割合が2010-2020年に拡大した国。

丸はEU報告書にて詳細調査をしている国の印であるので無視

European Commission. (2023). *Study on the state and effectiveness of national funding systems of higher education to support the European Universities Initiative: Executive summary*. Luxembourg: Publications Office of the European Union.

# 欧州各国で用いられている指標

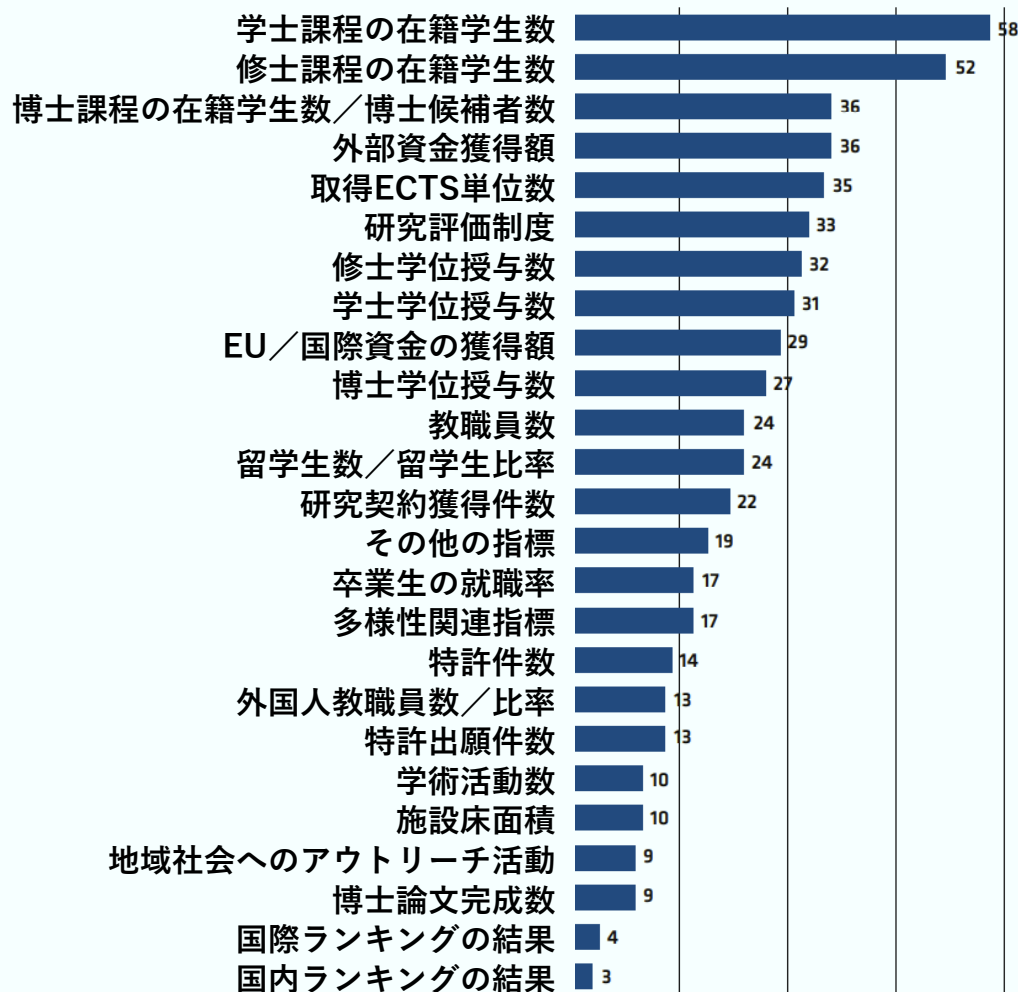
資金配分算定式で用いられる指標の重要度（各国大学協会による回答の重み付け集計）

- ✓ 在籍学生数（定員でなく）はコストの近似として活用。
- ✓ 博士課程学生数の重要性が上昇。
- ✓ 学生数の成果指標である学位取得数や単位取得数も重要。就職率も拡大。
- ✓ 国によっては国際化を重視して留学生数。
- ✓ 研究評価制度が高い重要性。

Bennetot Pruvot, E., & Estermann, T. (2022). *Allocating core public funding to universities in Europe: State of play & principles*. Brussels: European University Association.

**Figure 3 – Estimated importance of indicators in funding formulas**

Note: Respondents were asked to assess the relative importance of a series of possible indicators in the formula used in their system. Responses were given weights to rank these indicators, following the same methodology as in the previous study. The graph includes all systems making use of a funding formula, regardless of whether it is a major or minor funding mechanism, and whether it is geared towards funding all activities, teaching or research only.



# 実績指標・実績契約のレビュー（省庁、資金提供機関、学長協会の代表者の調査、ワークショップ）

European Commission. (2023). *Study on the state and effectiveness of national funding systems of higher education to support the European Universities Initiative: Executive summary*. Luxembourg: Publications Office of the European Union.

## 実績配分で得られた成果

- 修了率の向上
- 学位取得までの期間短縮・進捗の促進
- 教育・学習の質の向上
- 学生指導・メンタリングの強化
- 研究の質の向上
- 博士課程修了者数の増加
- 国際化の進展

## 実績配分制度の利点

- 成果重視の組織運営を促進し、目標達成を支援
- 公的資金投入の**説明責任・正当性**を強化
- 基盤的資金配分の**透明性向上**
- 高等教育機関と政府・資金提供機関との**戦略的対話を促進**

## 想定される課題・リスク

- 機関の規模・地域・専門分野によって**不利な影響が生じる可能性**
- **成果指標が機関の使命と適合しない**場合がある
- 成果指標が**大学の自律性と衝突する可能性**
- 論文数等の書誌指標が**研究者の出版行動に影響**
- **制度の複雑化や報告義務の増加による管理負担の増大**

# 望ましい配分方式の考え方（欧州大学協会 2022）

Bennetot Pruvot, E., & Estermann, T. (2022). *Allocating core public funding to universities in Europe: State of play & principles*. Brussels: European University Association.

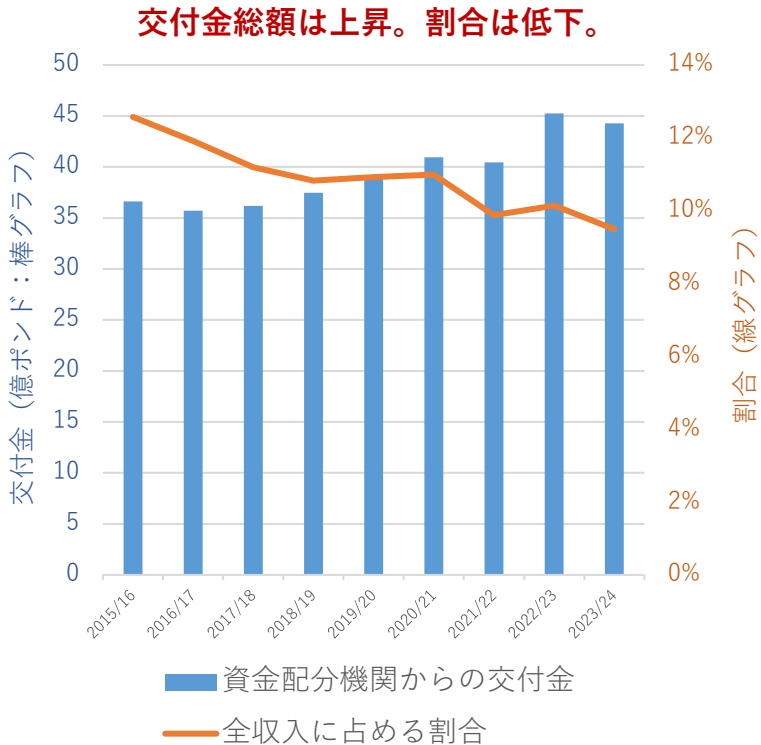
持続可能な大学財政システムは、次の要件を満たすべきである。

1. ビジョンと目標の実現を支援する。
2. **理解しやすく透明である。**
3. 大学セクターが制度設計に関与する。
4. 財政的持続可能性を支えるため、十分な資源を配分し、コストや需要の変化に対応する。
5. 長期目標に沿って、**複数の資金配分手段をバランスよく組み合わせる。**
6. 資金配分手段が、目的（基盤的コスト、政策誘導、インセンティブ）に適合している。
7. **大学の硬直的なコスト構造を踏まえ、固定費を適切にカバーする。**
8. **歴史的配分（前年ベースの配分）への過度な依存を避ける。歴史的配分は、コスト上昇、学生数拡大、機能追加などに伴う大学の負担増を反映しない。**
9. セクター全体で一貫性あるデータに基づく。**大学自身が影響を見積もることができる。**
10. 大学がコントロールできない変動費に対しては、適切な代理指標と結びつける。
11. 罰則でなく、**ポジティブなインセンティブによって成果を評価・報奨する。**
12. 大学ごとの個別的なアプローチを可能にすることで、**大学の戦略的特色化を可能にする。**
13. **政策誘導と大学の自律性拡大を両立させる。**
14. 資金配分制度の改善と安定性のバランスを確保し、大学の予見可能性と計画能力を高める。

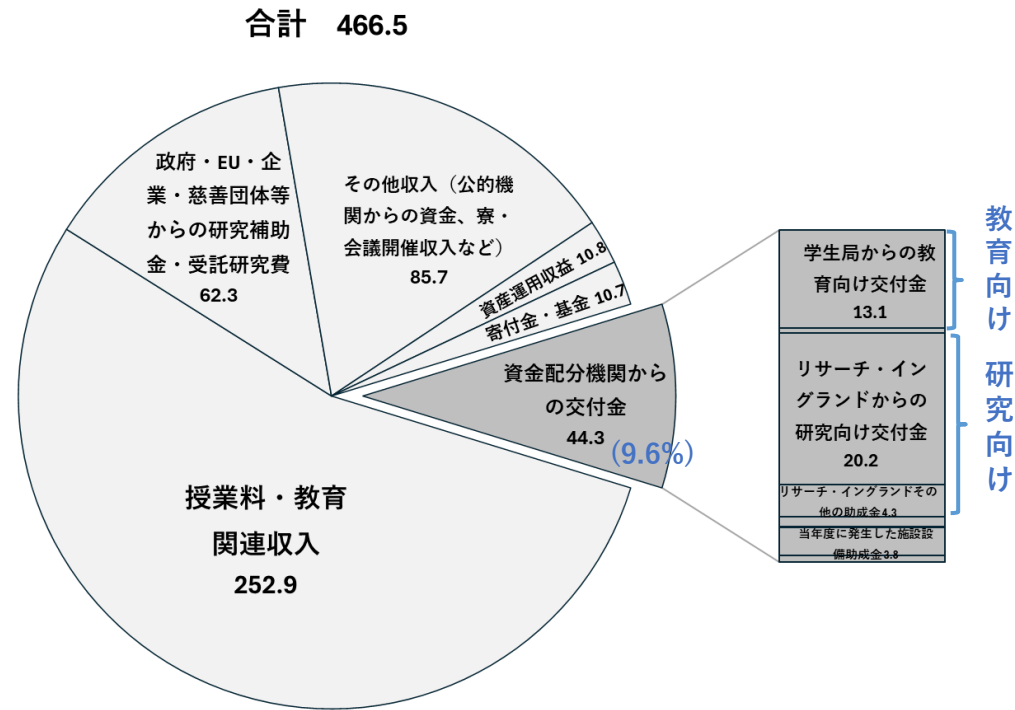
# 運営費交付金の配分に関する 各国の状況

# 英国（イングランド）

イングランドにおけるブロックグラント（運営費交付金）の推移



イングランドの高等教育機関の収入構造（2023/24学術年度）



(単位：億ポンド)

出典：HESA Open data and official statistics: Finances. Table 7 Income analysed by sourceより作成(2025年12月データ)

# 教育向け交付金 (2025-2026)

<https://www.officeforstudents.org.uk/media/ajign220/guide-to-funding-2025-26-updated-august-2025.pdf>

- 2012年より教育用の機関向け交付金は、授業料3倍化＋公的学生ローン拡大の転換により縮小。現在は、それでは不足する部分のみを配分。**主に算定式で配分**

## ①高コスト分野への配分 (£957 million)

- 高コスト分野への配分 = 学生数（フルタイム換算） × 補正係数（対象学生に限定） × 分野別単価（funding rates）

単価グループ	説明	単価 (2025-26)	過去の単価 (2017-18)
単価グループA	医学・歯学・獣医学の臨床実習課程等。	£ 11,580.00	£ 10,000.00
単価グループB	実験を行う科学・工学分野や助産学などの医療関連職の登録前課程。	£ 1,737.00	£ 1,500.00
単価グループC1.1	中間的なコストの分野。コンピュータ・情報技術、考古学、看護師登録前課程。	£ 289.50	£ 250.00
単価グループC1.2	舞台芸術やクリエイティブアートの中間的なコストの分野。	£ 130.54	
単価グループC2	地理学、数学、言語学、心理学など、実験室、スタジオ、フィールドワークの要素を含むその他の中間コスト分野。サンドイッチコースの職業経験年（サンドイッチ・イヤー）に在籍する学生	0	0
単価グループD	教室での授業中心の分野。人文学、ビジネス、社会科学。	0	0

単価が上昇

- 加えて、看護・助産・関連医療分野の補助、非常に高額なSTEM分野補助、臨床スタッフ雇用追加コスト。

## ②学生のアクセス拡大と成果向上のための配分 (£273 million)

- 高等教育への参加が少ない層や追加支援を必要とする学生の学修継続・成果向上を支えるため、大学に生じる追加コストを補うための資金。主に対象学生数や学生属性等に基づく算定式で配分。

## ③専門教育機関への配分 (£57 million)

- 2022年ピアレビュー審査を経て、教育が世界的に卓越していると認定された20大学を支援。芸術系単科大学が中心。医学・公衆衛生・獣医学・農学・経営・工学の単科大学が少数。

# 研究向け交付金

## 研究活動のための交付金と競争的資金のバランスの確保

### – 2017年高等教育・研究法第103条(4)項

- 「**「バランスの取れたファンディング原則」**とは、(a)第95条(1)項の取り決めに従って同項に記載されたりサーチカウンスルが行使できる機能と（**=競争的研究費**）、(b)第97条(1)項の取り決めに従ってリサーチ・イングラウンドが行使できる機能（**=運営費交付金**）との間で、資金配分において合理的なバランスが達成されるようにする必要があるという原則である。」

### – 実際のバランスの維持

- 運営費交付金：競争的資金 = 0.64 : 1

(出典： *Explainer: dual support funding for research and innovation*)

※人件費や間接経費をどの程度研究プロジェクト費で賄うかで数字の持つ意味は変わるため、日本が単純に数字を参照することはできないが、バランスをとることの明示的な議論をしていることは参照できる。

# 研究向け交付金の構成

<https://www.ukri.org/publications/research-england-funding-budgets-for-2025-to-2026/research-england-funding-budgets-2025-to-2026/>

	2025/26年 度(億ポンド)
<b>質を考慮した研究資金 (Quality-related research: QR)</b>	19.87
<b>主たるQR研究資金 (ロンドン係数を含む)</b>	13.03
<b>QR研究学位課程指導資金 (research degree programme supervision fund)</b>	3.44
<b>QR慈善団体からの研究資金支援資金 (charity support fund)</b>	2.19
<b>QR企業連携研究への資金 (business research element)</b>	1.14
<b>QR国立研究図書館向け資金 (funding for National Research Libraries)</b>	0.07
政策支援基金 (Policy Support Fund)	0.29
研究文化強化 (Enhancing Research Culture)	0.30
参加型研究 (Participatory Research)	0.06
特定機関要素 (Specialist Provider Element)	0.20
国立施設・イニシアティブ (National facilities and initiatives)	0.80
高等研究院および動物学研究所 (School of Advanced Study and Institute of Zoology)	0.13
<b>研究資金 合計</b>	<b>21.65</b>
高等教育イノベーション基金 (HEIF)	2.80
ほか	0.33
<b>知識交流 合計</b>	<b>3.13</b>

## 資金配分する論理が明確 + 算定による透明性

- **主たるQR研究資金**
  - 対象教員数、分野によるコスト指数、REFの結果に基づき配分。
- **QR研究学位課程指導資金 (RDP)**
  - Mainstream QR配分対象組織向けの大学院生指導経費。
  - 大学院生数、分野によるコスト指数、REFの結果に基づき配分。(標準で1FTE当たり4,800ポンド程度)
- **QR慈善団体からの研究資金支援資金**
  - チャリティのフルエコノミックコストの補填のため。
  - チャリティからの研究費で比例配分。
- **QR企業連携研究への資金**
  - 企業からの研究費で比例配分
- **QR国立研究図書館向け資金**
  - 5つの図書館への配分

→ 各種ユーザー（企業、行政、第三セクターなど）からの収入額に基づき配分

# Mainstream QRの配分方法

大学の研究評価(REF)を実施

- ✓ 34の分野(Unit of Assessment) ごとに以下の基準で評価

Overall Quality Profile					
Quality Level	4*	3*	2*	1*	u/c
% of research	15	35	39	11	0

Outputs				
4*	3*	2*	1*	u/c
14.7	31.4	40.3	13.6	0
60%				

研究成果の質

Environment				
4*	3*	2*	1*	u/c
10	40	40	10	0
15%				

研究環境

Impact				
4*	3*	2*	1*	u/c
20	40	35	5	0
25%				

研究による社会的インパクト

Source: REF2019/01 Guidance on submissions

配分類(QR)

= 提出研究者数 × 分野別コストウェイト × REF評価結果によるウェイト

→基本的に配分類は6~7年固定

分野区分	分野単価ウェイト
	2025-26年
高コストの実験・臨床分野	<b>1.6</b>
中間的コスト分野	<b>1.3</b>
他	<b>1.0</b>

×

評価結果	資金配分の計算のためのウェイト
	2025-26年
4* (国際的に先導的)	<b>4</b>
3* (国際的に卓越)	<b>1</b>
2* (国際的に認められている)	<b>0</b>
1* (国内で認められている)	<b>0</b>
Unclassified	<b>0</b>

× ロンドン都市調整 (市内1.12、市外1.08)

# 配分の透明性

各大学が、教育・研究でいくらの予算が配分されたかを、項目ごとや根拠データ（算定に用いた学生数や研究評価結果・教員数など）全て公表。

→ 誰もが確認できる透明性

**Table A1: Recurrent grants for academic year 2025-26**

July 2025 grant announcement  
Figures in £s

UKPRN	Provider	Nursing, midwifery and allied health subject funding	Very high-cost health subjects	Clinical consultant s' pay	NHS Senior academic GPs' pay	pensions scheme compensat ion	Funding for high-cost
10000055	Abingdon and Witney College	12,906	0	0	0	0	12,906
10000163	Health Sciences University	1,918,609	370,060	0	0	0	2,288,669
10000291	Anglia Ruskin University	9,806,013	625,255	0	0	0	10,431,268
10000385	Arts University Bournemouth	358,362	0	0	0	0	358,362
10000415	Askham Bryan College	458,414	0	0	0	0	458,414
10000533	Barnet & Southgate College	0	0	0	0	0	0
10000536	Barnsley College	69,018	0	0	0	0	69,018
10000560	Basingstoke College of Technol	10,387	0	0	0	0	10,387
10000571	Bath Spa University	671,437	0	0	0	0	671,437
10000610	Bedford College	84,917	0	0	0	0	84,917
10000712	University College Birmingham	826,024	77,909	0	0	0	903,933
10000720	Bishop Auckland College	2,872	0	0	0	0	2,872
10000721	Bishop Burton College	316,360	0	0	0	0	316,360
10000747	Blackburn College	50,524	0	0	0	0	50,524
10000754	Blackpool and the Fylde College	764,325	0	0	0	0	764,325
10000812	Boston College	33,963	0	0	0	0	33,963
10000820	Bournemouth and Poole College	91,679	0	0	0	0	91,679
10000824	Bournemouth University Higher	3,643,963	238,043	0	0	0	3,882,006
10000840	Bradford College	186,815	0	0	0	0	186,815
10000878	Bridgwater and Taunton College	297,358	31,831	0	0	0	329,189
10000886	University of Brighton	8,055,069	479,649	88,466	65,466	4,936	8,696,909
10000944	Brockenhurst College	0	0	0	0	0	0
10000948	Bromley College of Further and	5,793	0	0	0	0	5,793
10000950	Brooklands College	9,276	0	0	0	0	9,276
10000952	The SMB Group	31,098	0	0	0	0	31,098
10000961	Brunel University London	3,044,883	129,867	0	0	0	3,174,750
10000975	Buckinghamshire New Universit	1,390,894	273,923	0	0	0	1,664,817

<https://www.officeforstudents.org.uk/publications/funding-for-2025-26-decisions-and-allocations/>

**Table 1: Recurrent quality-related research (QR) and Higher Education Innovation Funding (HEIF) allocations for the academic year**

UKPRN	Higher education provider	Region	Mainstream QR funds (£)	London weighting on mainstream QR (£)	Mainstream QR funds including London weighting (£)	QR charity support fund (£)	QR business research element (£)	QR RDP supervision funds (£)							
10067853	The Academy of Contemporary Music	South East	-	-	-	-	-	-							
10000291	Anglia Ruskin University	East of England	2,785,131	-	2,785,131	81,930	65,038	1,224,839							
10000385	The Arts University Bournemouth	South West	399,867	-	399,867	3,202	1,401	33,019							
10007162	University of the Arts, London	London	3,335,902	400,308	3,736,210	15,934	4,202	923,906							
10007759	Aston University	West Midlands	6,766,448	-	6,766,448	198,122	409,044	1,287,627							
10007850	University of Bath	West West	16,221,458	-	16,221,458	1,268,194	726,344	5,852,243							
10000571	Bath Spa University	South West	1,570,846	-	1,570,846	41,994	514	166,134							
10007152	University of Bedfordshire	East of England	1,156,362	-	1,156,362	69,167	30,628	260,240							
10007760	Birkbeck, University of London	London	7,395,853	887,505	8,283,358	571,368	29,041	1,667,859							
10006840	University of Birmingham	West Midlands	34,924,152	-	34,924,152	6,469,926	4,222,943	11,181,635							
10007140	Birmingham City University	West Midlands	3,025,030	-	3,025,030	46,157	73,349	996,887							
10007832	Birmingham Newman University	West Midlands	235,589	-	235,589	-	-	-							
10007811	Bishop Grosseteste University	East Midlands	155,866	-	155,866	91	-	105,331							
10000212	Bournemouth University	South West	5,160,412	-	5,160,412	20,466	60,530	876,935							
10007798	University of Manchester	A_01	Clinical Medicine	Environment	75	25	0	0	165.79	55.26	0	0	0	221.06	
10007798	University of Manchester	A_01	Clinical Medicine	Impact	72.7	27.3	0	0	160.71	60.35	0	0	0	221.06	
10007798	University of Manchester	A_01	Clinical Medicine	Outputs	37.4	44.5	15.9	1.1	1.1	82.68	98.37	35.15	2.43	2.43	181.05
10007798	University of Manchester	A_02	Public Health, Health Serv	Environment	87.5	12.5	0	0	0	74.9	10.7	0	0	0	85.6
10007798	University of Manchester	A_02	Public Health, Health Serv	Impact	64.3	7.1	28.6	0	0	55.04	6.08	24.48	0	0	61.12
10007798	University of Manchester	A_02	Public Health, Health Serv	Outputs	42.5	46.8	5.6	0	5.1	36.38	40.06	4.79	0	4.37	76.44
10007798	University of Manchester	A_03	Allied Health Professions, C	Environment	100	0	0	0	0	125.52	0	0	0	0	125.52
10007798	University of Manchester	A_03	Allied Health Professions, C	Impact	77.8	16.6	5.6	0	0	97.65	20.84	7.03	0	0	118.49
10007798	University of Manchester	A_03	Allied Health Professions, C	Outputs	47.5	48.4	3.1	0.7	0.3	59.62	60.75	3.89	0.88	0.38	120.37
10007798	University of Manchester	A_04	Psychology, Psychiatry and Environment	Environment	75	25	0	0	0	71.04	23.68	0	0	0	94.72
10007798	University of Manchester	A_04	Psychology, Psychiatry and Impact	Impact	85.7	14.3	0	0	0	81.18	13.54	0	0	0	94.72
10007798	University of Manchester	A_04	Psychology, Psychiatry and Outputs	Outputs	35.9	45.5	14	1.6	3	34	43.1	13.26	1.52	2.84	77.1
10007798	University of Manchester	A_05	Biological Sciences	Environment	87.5	12.5	0	0	0	125.17	17.88	0	0	0	143.05
10007798	University of Manchester	A_05	Biological Sciences	Impact	61.1	38.9	0	0	0	87.4	55.65	0	0	0	143.05
10007798	University of Manchester	A_05	Biological Sciences	Outputs	54.7	37.5	7	0.2	0.6	78.25	53.64	10.01	0.29	0.86	131.89
10007798	University of Manchester	B_07	Earth Systems and Environ	Environment	75	25	0	0	0	53.08	17.7	0	0	0	70.78
10007798	University of Manchester	B_07	Earth Systems and Environ	Impact	75	25	0	0	0	53.08	17.7	0	0	0	70.78
10007798	University of Manchester	B_07	Earth Systems and Environ	Outputs	49.2	49.1	1.7	0	0	34.82	34.75	1.2	0	0	69.58
10007798	University of Manchester	B_08	Chemistry	Environment	100	0	0	0	0	76.2	0	0	0	0	76.2
10007798	University of Manchester	B_08	Chemistry	Impact	50	50	0	0	0	38.1	38.1	0	0	0	76.2
10007798	University of Manchester	B_08	Chemistry	Outputs	58.9	40.5	0.6	0	0	44.88	30.86	0.46	0	0	75.74
10007798	University of Manchester	B_09	Physics	Environment	100	0	0	0	0	87	0	0	0	0	87
10007798	University of Manchester	B_09	Physics	Impact	85.7	14.3	0	0	0	74.56	12.44	0	0	0	87
10007798	University of Manchester	B_09	Physics	Outputs	49.1	47.2	3.7	0	0	42.72	41.06	3.22	0	0	83.78
10007798	University of Manchester	B_10	Mathematical Sciences	Environment	87.5	12.5	0	0	0	78.71	11.24	0	0	0	89.95
10007798	University of Manchester	B_10	Mathematical Sciences	Impact	57.1	42.9	0	0	0	51.36	38.59	0	0	0	89.95
10007798	University of Manchester	B_10	Mathematical Sciences	Outputs	46	53.1	0.9	0	0	41.38	47.76	0.81	0	0	89.14
10007798	University of Manchester	B_11	Computer Science and Info	Environment	100	0	0	0	0	53.1	0	0	0	0	53.1

<https://www.ukri.org/publications/research-england-grant-allocations-to-heps-2025-to-2026/>  
<https://www.ukri.org/publications/higher-education-provider-grant-data-tables-2025-to-2026/>

# オーストラリア

<https://www.education.gov.au/higher-education-funding>  
<https://www.education.gov.au/research-block-grants>

- **教育向けブロックグラント** (2025-26年：Commonwealth Grant Scheme 約80億豪州ドル＋Needs-based Funding 2.72億。参考:2019年で71億豪州ドル)
  - **学生数と分野ごとの単価に応じて配分。**
    - ▶ 各公立大学 (Table A universities) には、年間の基本予算枠 (MBGA：Maximum Basic Grant Amount) が設定。大学は、その枠の中で、政府補助付き学生定員 (CSP：Commonwealth supported places) をどの分野に何人分配するかを決める。学生当たり補助額は分野ごとの単価 (Funding clusters) による。
  - 現在は、**従来の固定的な配分から、在学生数などの実際の学生需要に応じて定員枠を調整する Managed Growth へ移行中。**
  - 加えて、低所得層、先住民学生、地方キャンパスの学生を支える追加資金として、Needs-based Funding (NBF) が上乗せして配分。
    - ▶ 2020年に実績連動型配分 (PBF) が導入されたが、現在は上記に移行し、実質的に停止。
- **研究向けブロックグラント** (2026年：23.7億豪州ドル。参考:2020年で19.5億豪州ドル)
  - 以下の2つの要素で配分
    - ▶ ① *Research Support Program (RSP)*：競争的資金47%＋外部連携収入53%の合計で比例配分 (**間接経費に相当**)
    - ▶ ② *Research Training Program (RTP)*：**博士・研究修士学生の訓練のための資金**。競争的資金25%＋外部連携収入25%＋修了者数50%で配分。
  - 研究評価ERAや研究社会的インパクト評価EIを実施していたが停止。資金配分にも使われていない。後継制度は検討中。
- **国と大学の契約** (Mission-based compact)
  - ブロックグラントを配分するための法定要件。大学の目標とその確認方法 (定量・定性の指標) を示す。
  - 政府は2027年から Managed Growth を本格実施し、ATEC (豪州高等教育委員会) がcompact交渉と定員配分を担う方向。

# ドイツ

- 公的大学の基盤的運営費は州（Länder）が主たる負担であるが、連邦の役割も拡大。
  - 2024年公的高等教育歳出のうち州が323億ユーロ(86.1%)、連邦が52億ユーロ(13.9%)。  
<https://eurydice.eacea.ec.europa.eu/eurydia/germany/higher-education-funding>
  - 2015年の基本法（Grundgesetz）第91b条改正により、連邦は州を越える重要性を持つ科学・研究・高等教育分野について、州と共同で大学を恒久的に支援することが可能に（トップ大学支援の「エクセレンス戦略」等）。
  - 2021年に連邦と州共同の「**学修と教育の強化のための未来契約**（Zukunftsvertrag Studium und Lehre stärken）」が「高等教育協定2020（Hochschulpakt 2020）」の後継として開始。**①教育の質向上**（カリキュラム改善、補習・導入教育、キャリア支援、デジタル基盤整備等）、**②学生受入れ能力（教育容量）の維持**、**③学修・教育に従事する常勤の学術・芸術系人材の恒常的・無期雇用の拡充**（教授職を含む常勤の学術スタッフの無期雇用）を支援する恒久的枠組み。
    - ▶ 連邦拠出は2026年21億ユーロであり、州は少なくとも同額を追加拠出。
    - ▶ 州別配分は統計に基づく透明な算定で、2026年配分の重みは 新入生数20%、標準終了年限+2学期内の在学学生60%、卒業生20%。
- 州から大学への配分方式は州により異なるが、**算定方式、契約、歴史的配分の組み合わせ**。
  - 算定方式が一般的であり、インプット指標とアウトプット指標が用いられる。教育では学生数や卒業生数など、研究では博士号授与数や外部資金などが典型的。
  - 2010年代以降、算定方式に加えて、州と大学が**複数年の目標・業績協定（performance agreements）を結ぶ対話型の資金配分枠組み**の導入。各大学の戦略・目標や州の政策への対応など。追加資金と結びついているが、その額は大学全体の予算に比べれば小規模。

# ドイツのニーダーザクセン州

州からの交付金の10%のみを実績指標で配分。

教育 48%	新入生数	21%
	卒業生数（標準修業年限に照らした在学期間で加重）	75%
	受入留学生数	2%
	海外派遣学生数	2%
研究 48%	外部資金（第三者資金）	74%
	博士号授与数	24%
	フンボルト財団フェロー・受賞者	2%
男女共同参画 4%	女性教員・研究者	20%
	新規採用女性教授	40%
	女性博士号取得者数	20%
	女性卒業生数（女性比率50%未満の課程）	20%

別途、「HEV（大学発展協定）2024-2029」を枠組みとして、州と各大学は2025～2030年の**戦略的目標協定を締結**。HEVが定める目標領域（例：教育・人材養成、研究、イノベーション／トランスファー、国際化、自律性・ガバナンス、良い雇用条件、平等・多様性、デジタル化、施設整備等）に沿って、各大学の立地・プロフィールに応じた個別目標を設定する。個別目標ごとに資金を直接配分する仕組みではなく、基盤的予算を前提に大学の発展方向を定める枠組み。

[https://www.uni-hildesheim.de/media/hochschulentwicklung/2024-03-12\\_Hochschulentwicklungsvertrag\\_2024-2029\\_unterzeichnet.pdf](https://www.uni-hildesheim.de/media/hochschulentwicklung/2024-03-12_Hochschulentwicklungsvertrag_2024-2029_unterzeichnet.pdf)

# フランス

- SCSPの配分モデル**SYMPA (Système de répartition des moyens à la performance et à l'activité)** が 2009年に導入され、2010年代半ばまで運用。SYMPAは約20億ユーロ (SCSPの約20%) の予算 (運営費+一部の人件費) と約12万人分の国家財源ポスト上限設定について、大学間で以下の指標で算定。

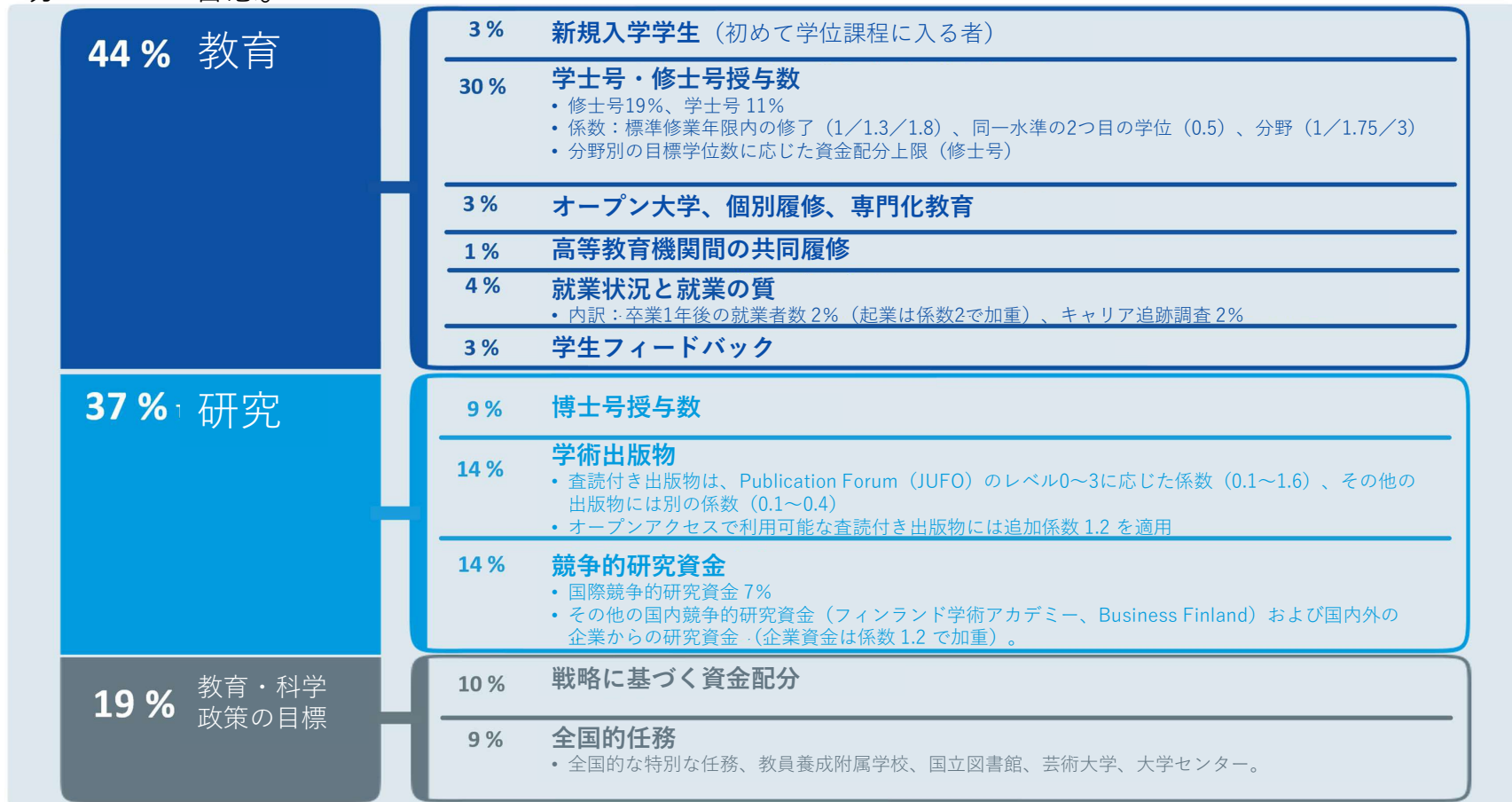
		教育	研究	合計
活動		試験に出席した学生数 (60%)	研究活動を行っている教員研究者数 (20%)	80%
実績	計算による	学士号授与数、修士課程修了者数 (4%)	大学評価機関による研究ユニット評価による重み付け研究者数 (12%)	20%
	交渉による	学士課程での進学・卒業、小規模修士課程の割合、雇用 (1%)	ライセンス、委託、博士号取得者の就職 (3%)	
合計		65%	35%	100%

- 以下の理由から廃止され、近年は前年度配分を基礎とする**歴史的配分へ回帰**。
  - 算定はするが、実際には「前年度から減額しない」等の政治的調整により配分に制約。
  - 大学セクターからは反発：大学間での資金移転 (ゼロサム) と受け止め。指標の年次変動による不安定さ。人件費を配分メカニズムに組み込むことへの抵抗等 (EUA 2022)
- フランスでは 1989年以来、大学と国が契約を結ぶ政策。加えて 2018年に「戦略的経営対話(DSG)」が試行され、2023年からは「目的・手段・成果契約 (COMP)」が DSG を段階的に代替。
- COMP は3年契約で、**対象機関の SCSP 総額の約0.8%を目安とする追加的資金**を、①教育提供・将来の雇用への対応、②研究・イノベーション、③環境転換と持続可能性、④学生の成功・ウェルビーイング、⑤大学運営などの目標に結びつけて配分。
- フランス高等教育・研究省 (MESR) は2025年4月、**COMPをSCSP全体を対象とする枠組みへ拡張する方針**を示し、2地域 (Nouvelle-Aquitaine と Provence-Alpes-Côte d'Azur) で先行試行を開始。

# フィンランド core funding model 2025

[https://okm.fi/documents/1410845/4392480/YO\\_rahoyitusmalli%20vuodesta%202025%20alkaen.pdf/1ff9a3e1-c560-5053-d6f8-2cc042ede58e?t=1754898691329](https://okm.fi/documents/1410845/4392480/YO_rahoyitusmalli%20vuodesta%202025%20alkaen.pdf/1ff9a3e1-c560-5053-d6f8-2cc042ede58e?t=1754898691329)

- 国会が毎年決定する大学セクター全体の基盤的資金のうち、教育・研究実績に基づく部分は、各指標における各大学の実績シェアに応じて毎年各大学に配分。
- これに加えて、戦略に基づく資金配分と全国的任務。教育文化省と各大学は4年間の契約を結び、契約期間の開始時に、共通目標、大学のプロフィールと強み、戦略目標、学位目標、それらに基づく資金配分について合意。



# 米国

全州集計では、公立高等教育機関等への一般運営費は2014～2024年に名目で61.0%増、インフレ調整後でも22.5%増加。一方、純授業料収入は、インフレ調整後9.1%減少。

(百万ドル)

		2001年	2014年	2019年	2023年	2024年	2023年からの変化率	2019年からの変化率	2014年からの変化率	2001年からの変化率
インフレ未調整	公立高等教育向け公費	56,118	74,825	91,442	113,014	121,502	7.5%	32.9%	62.4%	116.5%
	一般運営費	<b>53,289</b>	<b>67,637</b>	<b>82,595</b>	<b>100,577</b>	<b>108,876</b>	<b>8.3%</b>	<b>31.8%</b>	<b>61.0%</b>	<b>104.3%</b>
	学生向け援助	2,843	7,187	8,846	10,750	12,011	11.7%	35.8%	67.1%	322.5%
	純授業料収入	22,896	65,390	75,363	76,102	78,096	2.6%	3.6%	19.4%	241.1%
	教育収入合計	78,903	139,472	165,897	188,178	198,547	5.5%	19.7%	42.4%	151.6%
<b>高等教育コスト調整指数 (HECA)</b>		<b>0.5466</b>	<b>0.7607</b>	<b>0.8419</b>	<b>0.9653</b>	<b>1</b>	<b>3.6%</b>	<b>18.8%</b>	<b>31.5%</b>	<b>82.9%</b>
インフレ調整済み	公立高等教育向け公費	102,660	98,361	108,614	117,074	121,502	3.8%	11.9%	23.5%	18.4%
	一般運営費	<b>97,484</b>	<b>88,912</b>	<b>98,106</b>	<b>104,191</b>	<b>108,876</b>	<b>4.5%</b>	<b>11.0%</b>	<b>22.5%</b>	<b>11.7%</b>
	学生向け援助	5,201	9,448	10,508	11,136	12,011	7.9%	14.3%	27.1%	130.9%
	純授業料収入	41,885	85,958	89,516	78,836	78,096	-0.9%	-12.8%	<b>-9.1%</b>	86.5%
	教育収入合計	144,340	183,343	197,051	194,938	198,547	1.9%	0.8%	8.3%	37.6%

HECA (The Higher Education Cost Adjustment) は、大学の費用構成を人件費75%・非人件費25%とみなし、人件費部分を米連邦政府の雇用コスト指数 (ECI)、非人件費部分をGDPインプリシット・プライス・デフレーター (GDP IPD) で調整して作成した高等教育向けインフレ調整指標。

SHEEO(2025). State Higher Education Finance: FY 2024. [https://shef.sheeo.org/wp-content/uploads/2025/05/SHEEO\\_SHEF\\_FY24\\_Report.pdf](https://shef.sheeo.org/wp-content/uploads/2025/05/SHEEO_SHEF_FY24_Report.pdf)

州によって多様な配分方式の組み合わせ

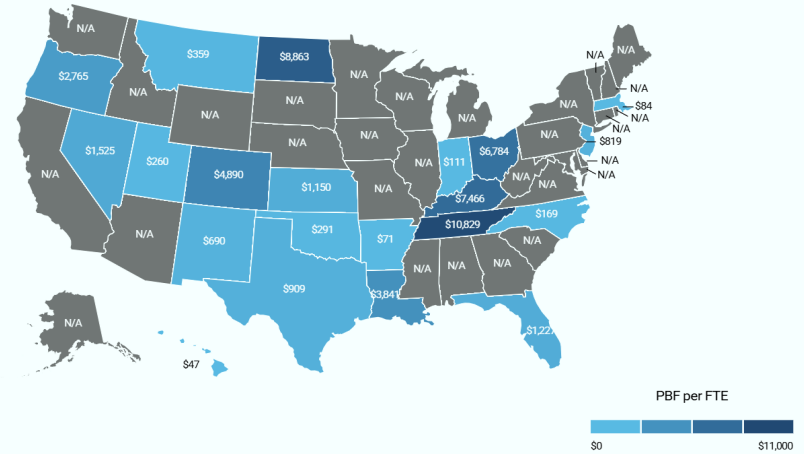
- SHEEO(2022)による2021年度調査。46州回答。4年制大学のみを集計

配分方式	実施州数	実施州	2021会計年度の全州配分額における割合
ベースプラス方式 (前年度配分を基礎)	30	AZ, CA, FL, IL, KS, NJ, WY (4年制のみ) AL, AR, CO, HI, ID, IA, LA, MD, MN, MO, MT, NE, NH, NM, NY, NC, OK, OR, UT, VT, VA, WV, WI (2年・4年制双方)	63.07%
機関要望方式	13	AK, PA, SD, WA, WY (4年制のみ) AL, CT, DE, HI, IN, ME, MS, SC (2年・4年制双方)	14.44%
インプット重視算定式	10	NC (4年制のみ) CO, ID, KY, LA, NJ, OH, OR, TN, VT (2年・4年制双方)	4.74%
成果連動型配分 (PBF)	22	NJ, OR (4年制のみ) MI, MT, CO, NV, HI, NM, KS, ND, LA, OH, AR, OK, IN, RI, MA, TN, KY, TX, FL, UT (2年・4年制双方)	12.04%
特定目的の資金提供	30	AL, AZ, CA, CO, CT, FL, HI, ID, IN, IA, KS, KY, LA, ME, MI, MN, MS, MO, MT, NJ, NM, NC, OH, OK, SC, SD, VA, WA, WI, WY	5.72%

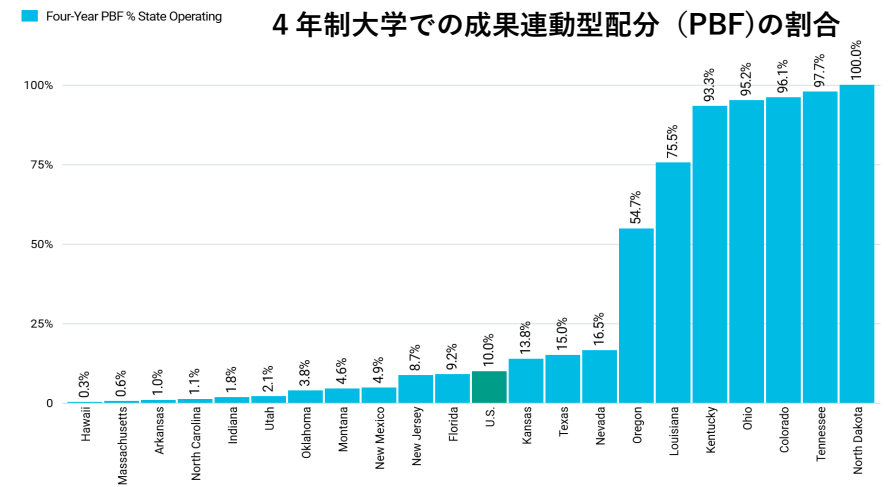
Laderman, S., McNamara, D., Prescott, B., Torres Lugo, S., & Weeden, D. (2022). State approaches to base funding for public colleges and universities. SHEEO and NCHEMS.

### 4年制大学での成果連動型配分 (PBF)での実施州 (学生フルタイム換算あたりの金額)

PBF per FTE at Four-Year Institutions, FY 2024 (Adjusted)



Four-Year PBF as a Percentage of Four-Year State Public Operating by State, FY 2024



[https://shef.sheeo.org/performance-based-funding-for-higher-education/?report\\_page=welcome](https://shef.sheeo.org/performance-based-funding-for-higher-education/?report_page=welcome)

# 米国テネシー州 Outcomes-Based Funding Formula

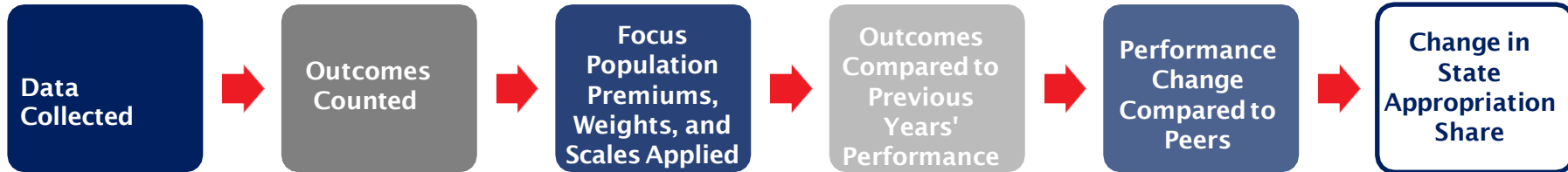
<https://comptroller.tn.gov/content/dam/cot/orea/advanced-search/2023/OBF2023Update.pdf>

<https://www.tn.gov/content/dam/tn/thec/bureau/research/other-research/factbook/2025/2025%20Fact%20Book.pdf>

大学への基盤的な機関助成の約80%を成果指標で配分。在学者数ではなく成果に基づく。

大学向け指標	
30時間の単位を取得した学生数	博士号および法学学位授与数
60時間の単位を取得した学生数	研究、サービス、委託業務の獲得額
90時間の単位を取得した学生数	6年間卒業率
学士号および準学士号授与数	100FTE人あたりの学位数
修士号および教育専門学位授与数	

- ✓ 大学のミッションと優先課題に応じて上記の指標のウェイトを変えている。
- ✓ 学生の種類（成人、低所得）、労働市場のニーズに合致した学士学位 に対する追加加算あり。



以下の指標により5.45%までを「**質保証配分(Quality Assurance Funding)**」として追加配分。

- ①一般教育評価（California Critical Thinking Skills Testまたは ETS Proficiency Profile）、
- ②主要分野評価（資格試験や専攻分野別評価）、
- ③教育プログラム（認証取得率または外部レビュー）、
- ④学生満足度（National Survey of Student Engagement等）、
- ⑤学生の公平性（歴史的に不利な立場にある学生集団の支援改善の質的取組と継続率改善）、
- ⑥学生の受入れと成功（特定の重点学生集団の学位・資格取得成果の向上）

# 日本における運営費交付金配分検討のための論点

1. 「前年度ベースの歴史的配分」を、インフレ・地政学的に不安定な時代において、削減対象とされないように、インプット・アウトプット指標などで根拠をもって必要性を明確化できるか。
2. 大学が「機能拡張」する中で、配分の必要性をより明確化できるか。
  - ✓ 間接経費の不足分の補填、博士学生の拡大によるコスト増、産学連携・イノベーション活動への支援、AI教育やデジタル化
3. 業績指標・評価の構造のシンプル化
  - ✓ 指標の「ランキング」で配分している国はないのではないかと。競争誘導ではなく実績に比例した配分へ。戦略的・協同的取組ができるような仕組みへ。
  - ✓ 複雑な仕組みをシンプル化。中期目標・計画、大学評価とのシンプルな連結構造の再設計。
4. 配分方式の影響をモニタリングする仕組み
  - ✓ 資金配分方式による影響をモニタリングの仕組みも検討する必要。